

雜錄

●女子高等師範の保育實習科 同校に於ては去る四月四日豫科入學試験を行ひ十名の入學を許可したり、左に記する同試験中の國語科問題なり。

國語科

(甲) 左の文章を通譯せよ

一、わが山里にだに猶めづらしう柴の戸ひきはなちたれど、例の獨はいとさうざうしうなむ、梢の雪花ならば手折りても御覽せさせむを、すべなくて今朝の間すぐまじと驚しはべるを「馬に鞍おけ」といそぎ仰せ給はばいと、うれしうなむ、

二、通常の景なりとて僅に配合を異にすれば佳景となることあり。例へば荒廢せる庭園の如き月色と梅花とを添へて忽ち無限の趣味を加ふるこゝなしとせず。曙光の如き殘照の如き飛雲飛雨の如き鳥聲蟲聲の如き皆境過いかんによりて情緒を添へ來るものなり。杜小山が句に

尋常一様窓前月

縁有梅花便不同  
と云へるもまた此邊の消息をすものなり。

(乙) 左の辭句に讀方並に略解を附せよ

- 一 汗牛充棟
- 二 疾鳥迅雷も及はず
- 三 出藍の譽れ
- 四 温故知新
- 五 襪襪させてふ蟲の聲
- 六 庭訓往來
- 七 禍を嫁す
- 八 埴生の小屋
- 九 片側破り
- 十 愚公山を移す

以上甲乙にて二時間

(丙) 國語 作文

一 保姆たらんと志望は如何にして起りしか

右書簡文體にて述ふべし

二 假想旅行記又は野遊之記

右何れか一を選びて普通叙事體にて記述す可し

以上二時間

會報

本會第十二總會 本會第十二總會は豫告の如く四月廿一日フレイベル先生の誕生日を以て午後一時女子高等師範學校幼稚園に於て開會せられたり時恰も春風駘蕩の候夜來の降雨名残りなく晴れ日影のどけき日和とて墨田の堤間はんよりは馴染の會にと歩を運ばれたる會員諸氏同志の友愛らしの幼児受引きつれらして來會せられたる百五十名の多きに達しぬ爛熳たる櫻花さしたる青銅の大花瓶はゆかしく演臺近く捨ゑられ縁深き磁なれ松にて飾られたツルレーベル先生の額は正面の壁上に掲げられ周圍の壁上また吳書のになれるあまたの小扁額にて飾られたる會場にて定刻開會、會長の開會の辭、に次ぎ會務報告幹事改選を終りし後瀨川醫學博士齋藤文學士の有益なる演說別頁記載ありつゝきて獨間奏樂ことに言啞學校生徒阿部氏の常陸丸、別れの國歌の兩曲には涙拭へる囀だちも見受けられた 右終りて園遊會にうつり吹く風寒からぬ極園の彼方此方天幕かけわたしたる中茶菓喫しつゝ、懇話數刻午後五時過ぎ解散せり遺憾なりしは手品師員の約に違ひて來らざりし。